

令和6年度 第1回 「淡路島観光戦略会議」 議事要旨

日時：令和6年6月28日（金） 16:10~16:40

場所：淡路広域消防ビル3階 多目的ホール

出席者：淡路県民局長、洲本市長、南あわじ市長
淡路市長、淡路島観光協会会長

議題（1）令和5年度 淡路島総合観光戦略アクションプランの
取組実績と課題について

（2）令和6年度 淡路島総合観光戦略アクションプランの
取組について

（3）令和6年度 重要な取組と主な取組について

事務局から資料1-1、1-2、1-3、2、3、参考資料、別添資料について一括して説明

①高速バスのオープンドア化について

【構成員】

- ・ 需要の問題なのか、別の問題があるのか、何がネックになっているのかを特定し、それを解消していくことが大事ではないか。

【事務局】

- ・ 島内で乗り降り可能なJRのバスがあるが、島内で乗り降りをしている人をほとんど見ない。認知されていないこともあると思うが、需要がどのくらいあるのかは、調査しないと分からない。現在は北に観光客が集まっている状況なので、島内の交流を促し需要を発掘していく意味でも、島内の観光資源の磨き上げを図る必要があると思う。

もう1つは、お客さんが乗り降りすることで運転手の労働条件が変わってしまうので、会社側からすれば難しいという意見がある。

【構成員】

- ・ オープンドア化の関係で、今年度進めようとしている取組は何かあるのか。

【事務局】

- ・ 具体的にはない。

【構成員】

- ・ 花みどりフェア実行委員会でも、オープンドア化の話があったが具体的な話にはならなかった。

【事務局】

- ・ 交通事業者と観光面での課題の認識をすることが大事だと思うので、アプローチが必要だと考える。

【構成員】

- ・ 労働条件の変化が理由で、オープンドア化が難しいという話はよく聞くが、賃上げをする上で質を高めることは大事なことで、経済状況をよくするためにも対応していただきたいと思っている。
神戸～淡路のバスのオープンドア化はもちろんだが、四国行きのバスのオープンドア化を進めることで、大阪や京都に来ているインバウンドを取り込むことができる。
そのために、高速道路上のバス停の整備を関係者と連携を取った上で進められたらと考える。

②令和5年度淡路島総合観光戦略の取組実績について

【構成員】

- ・ 推進戦略3（アメニティ戦略）の取組の中で「JSTS-D 達成度」が「I 評価」のものがあるが、これはどの項目か。

【事務局】

- ・ 景観の再構築の項目で、JSTS-D の趣旨を踏まえていないという評価になった。

【構成員】

- ・ 「JSTS-D 評価」に関して評価がIIの項目が多いが、持続可能な観光地に向けてという意味で前進していると思って良いのか。

【事務局】

- ・ 来年度の評価に向けてより客観性が高まるような評価の仕方を考えたいと思う。

【構成員】

- 交通の関係については、実際の課題やそれに対する解決策を事務局で検討して、次回以降の会議で報告させていただけたらと思う。
評価指標についても、来年度以降に向けて事務局で検討していただく。

以上